



1. 1階共有ロビー（ウナー）
2. 小劇場
3. 大劇場



人々の日常の居場所にもなり、日常生活に溶け込んでいる。環境については、アマハジ（雨端）のような伝統的建築言語や花ブロックのようなバナキュラーな素材が巧みに取り入れられ、過ごしやすい空間がつけられており、外皮の首里織のスクリーンも日射の遮断環境調整に一役買っている。また、劇場という性質上の空調負荷の変動に対しては、それに対応する負荷追

従型高効率熱源システムを構築するなどの用途に対する適切な仕組みが採用されている。施工については、外皮を特徴付ける首里織のスクリーンが、原設計のGRCの表裏二部構成から、施工者側からの発案で沖縄の工場で生産されるHPC（高強度繊維補強コンクリート）に炭素繊維ケーブル・膨張剤などの緊張材を導入したPCの二段階打設に変更されたという

事実は、設計者と地元の施工者の協働の成果をもっとも象徴する事柄と言えるだろう。近代建築が消えてきたローカルリティをどのように現在の建築が取り戻すことができるのかという問いに対して、この設計、施工、運営の協働は、そのひとつの答えを示しているように思える。



日建連表彰2023



第64回BCS賞

那覇文化芸術劇場 なはーと

選定理由 【選考委員】
中島 肇・篠原聡子・賀持剛一

なっている。夜間もその首里織の外皮からあふれる光は、通りに静かな華やぎを与えている。

一、六〇〇席の大劇場と三〇〇席の小劇場を擁する那覇文化芸術劇場なはーとは、国際通りに程近い中心市街地に立地する。旧芸術劇場が車でのアクセスを前提とした立地であったのと比較して、利用者にとってアクセシビリティの高い施設となっており、多くの市民が文化芸術にかかわる機会を提供するという趣旨に即した計画が実現されている。比較的小規模な建物からなる周辺の街並みのなかで、大きなボリュームであるこの劇場建築は四層、五層と分節され、隣接する街並みとの調和がはかられている。その分節された外皮は、首里織を模した緩やかなカーブを持つスクリーンによって構成され、アプローチもアマハジ（雨端）の低い軒下からとられるなど、街に見事に馴染むものとなる。一、六〇〇席の大劇場と三〇〇席の小劇場を擁する那覇文化芸術劇場なはーとは、国際通りに程近い中心市街地に立地する。旧芸術劇場が車でのアクセスを前提とした立地であったのと比較して、利用者にとってアクセシビリティの高い施設となっており、多くの市民が文化芸術にかかわる機会を提供するという趣旨に即した計画が実現されている。比較的小規模な建物からなる周辺の街並みのなかで、大きなボリュームであるこの劇場建築は四層、五層と分節され、隣接する街並みとの調和がはかられている。その分節された外皮は、首里織を模した緩やかなカーブを持つスクリーンによって構成され、アプローチもアマハジ（雨端）の低い軒下からとられるなど、街に見事に馴染むものとなる。一方で、この強い求心性を持った空間は、通りから通りへ抜けられるスリジグワー（街路）ともなっており、

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2023年で64回を数えました。

那覇文化芸術劇場 なはーと 概要

- 所在地 沖縄県那覇市久茂地3-26-27
- 建築主 那覇市
- 設計者 (有)香山建築研究所、(株)久米設計、(株)根路銘設計
- 施工者 (有)國場組、(株)大和建設、(株)金城キョウ建設、(株)ニシダ工業
- 竣工日 2021年6月30日

- 敷地面積 9,737㎡
- 建築面積 5,994㎡
- 延床面積 14,576㎡

- 階数 地上6階、地下2階
- 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄筋コンクリート造、鉄骨造



詳細や他の写真などは
左記の二次元コードから
Webページにアクセスしてご覧ください。

《日建連表彰2023 第64回BCS賞受賞作品》 WITH HARAJUKU / Entō / 大阪梅田ツインタワーズ・サウス、及び周辺公共施設整備 / 大阪大学箕面キャンパス 外国学研究講義棟 / 京都市美術館（京都市京セラ美術館）/ シェルター・インクルーシブプレイス コハル / 渋谷 パルコ・ヒューリックビル / 清水建設北陸支店新社屋 / 新宮市文化複合施設（丹鶴ホール） / 那覇文化芸術劇場 なはーと / 日本女子大学目白キャンパス再整備 / Port Plus / 丸紅ビル / ミチノテラス豊洲 / 早稲田大学本庄高等学院体育館